

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1 ○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	理念の見直しを行い、全職員から候補を募り、話し合い、独自の理念を作った。玄関、居間に掲げ、又業務日誌に綴じ、常に目に入るようにしている。		
2 ○理念の共有と日々の取組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	ミーティング、ケアカンファレンス等で確認し、常に実践に向けて日々取り組んでいる。		
3 ○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にされた理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	ご家族へは家族会や家族通信などで理念に沿った活動の報告している。又、年度始めの運営推進会議で説明している。	○	地域については公開日や見学等で来訪された時に説明していきたい。
2. 地域との支えあい			
4 ○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	ホームの行事への参加を呼びかけたり、町内の行事に参加したりしている。町内の回覧板を利用し、グループホームを知ってもらえるように努めている。近所の方々はごみ捨て時など、日常的に挨拶を交わしている。お隣の方は除雪をして下さっている。	○	よりいっそう隣近所の人たちとの日常的な付き合いに努め、互いに助け合える関係になれるようにしていきたい
5 ○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一人として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	町内会に加入し、町内の清掃、新年会等に参加し地域の人と交流するように努めている。また町内の見守り隊に加入し、バッジを付け、利用者様との散歩時に地域の小学生等の見守りを行っている。又、不定期で近所の方がボランティアに来ている。		
6 ○事業者の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	運営推進会議を通し、役立つことはないかを話し合ってきた。介護について地域の方からの相談を受け入れる為、窓口を設けている。又、町内会長様が回覧板にホームの情報を入れてくださったりなど協力を得ている。介護に係わる相談、及び、ホームの見学を兼ねた公開日を設け、実施し、地域の方からの相談に応じた。	○	相談に訪れやすいように公開日を設けたりしているが相談を受けることは少ない。これからも、地域に広く相談窓口があることやグループホームを知ってもらえるよう努めたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7 ○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	評価については、皆理解しており、改善すべき点はその都度話し合い、改善している。		
8 ○運営推進介護を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	グループホームの活動内容や評価への取り組み状況等については、会議の中で報告し、意見をもらっている。又、ホームのクリスマス会に参加していただき、利用者様と過ごし、感じたことを伝えてもらいサービス向上に努めている。		
9 ○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	運営推進会議以外に行き来する機会は少ないが、包括支援センター職員の方に相談等をし、改善に努めている。	○	サービスの質向上のため、市町村担当者からの意見や指導を受けて行きたい。
10 ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	研修等に参加し、学ぶ機会を持っている。	○	今後も機会を持ち、活用する必要がある場合は、支援できるように理解を深めて行きたい。
11 ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがない要注意を払い、防止に努めている。	研修会に参加し、学ぶ機会を持っている。グループホーム内での虐待については利用者様の様子を観察し注意を払っている。		
4. 理念を実践するための体制			
12 ○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	相談時、または契約時に詳しく説明し、理解、納得を図っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>13 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>特に機会は設けてはいないが、いつでも意見、不満等は管理者や職員に伝えていただけるよう、声かけをしたり、信頼関係を作るよう努めている。</p>		
<p>○家族等への報告</p> <p>14 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。</p>	<p>月一回の家族通信で利用者様の様子やグループホームの活動を報告している。健康状態に変化があればその都度連絡している。金銭管理は個別にお小遣い帳があり、毎月、居室費等の請求書と一緒に郵送している。</p>	○	<p>職員の異動等については家族通信等で入社の報告はしているが、その他の報告はしていないので今後は検討していきたい。</p>
<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>15 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>面会者カードや行事等のお知らせの手紙に要望欄を設け、意見をいただけるよう努めている。その外、ホームの行事の後に家族会を開き、要望等を聞いている。しかし、家族会への出席者は少ない。その為、家族会を開催する時は、事前に来訪できる日付を聞き、行っている。不満や苦情については、よく検討し改善できるよう努めている。</p>	○	<p>ご家族の来訪時に意見を聞いたり、家族会について、家族会のあり方と内容を検討し、より多くのご家族が参加できるよう工夫し、意見を頂き反映していきたい。</p>
<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>16 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>特に機会は設けていないが、毎朝のミーティング時には運営者や管理者も参加し、意見を聞けるよう努めている。それ以外は個別に対応している。</p>		
<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>17 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。</p>	<p>その都度話し合い、柔軟に対応できるようにしている。</p>		
<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>18 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。</p>	<p>異動や退職は最小限に抑えるよう努力はしているが、職員の病気や体力的な事、家庭の事情等で代わっているのが現状である。その為、日々スタッフへの配慮はしている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p> <p>職員研修では、職員の中から研修係を決め、係りは、希望する研修内容を職員から聞き年に4回実施している。また、外部の研修にも段階に応じて参加している。</p>		
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p> <p>管理者会議等で同業者との交流はしている。その場限りで終わってしまうこともあるが、少しずつ交流を深め、相互の意見交換等を通じて、サービスの向上に努めている。</p>	○	さらに地域のグループホームと交流の機会を持てるように努めたい。
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p> <p>個別に個人面談を実施し、職員の思いに耳を傾けている。年3回、職員の懇親会を行っている。</p>		
22	<p>○向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p> <p>職員の仕事に対する取り組みが良い場合は、さらに向上心を持ってもらえるよう声をかけ、評価を伝えている。</p>		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p> <p>相談時にご本人にも来訪していただいたり、管理者やケアマネージャーが自宅や病院を訪問し、できるだけご本人の思いを汲み取るように努めている。</p>		
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p> <p>相談時にご家族からよく話を聞き、不安等を汲み取る。また、グループホームでのケアの内容や生活の流れなどを説明し、利用するにあたり、心配を最小限にできるよう努めている。</p>	○	一度だけではなく、可能な限り、会う機会を持ち、不安等を解消できるよう、お互いの理解を深めるよう努力したい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 ○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	これまで利用していた支援等の情報や身体状況を見極め、対応を行っている。訪問診療や通院、必要な福祉用具についても対応を行っている。		
26 ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	グループホームの見学時には、なるべく来訪してもらい、じっくりと話を聞いたり、ホームの雰囲気を見てもらっている。また、体験入居等で徐々にホームに馴染めるよう努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	ご本人の豊かな人生経験を生かし、料理や裁縫を教わったり、一緒に過ごす時間を大切にしている。		
28 ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	ご家族にも協力していただき、来訪してもらったり、ご本人が不穏な状況の時は電話等で安心できる声かけをお願いしている。又、家族会等で認知症の理解を深め、ご家族や職員がご本人の傍にいることの大切さを伝えている。	○	さらに認知症の理解を深めていただく機会を作り、ご家族の協力が重要であることを伝えていきたい。
29 ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	生活の様子や体調の変化などを詳しく伝え、より関心を持って頂き、良い関係が築いていけるよう努めている。		
30 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	馴染みの場所には、職員が同行し満足してもらえるよう、支援している。また、馴染みの人が来訪された時は居室等でゆっくり談話を楽しんで頂いている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	利用者様同士の関係が悪化しそうな時は、職員が間に入りトラブルにならないよう努めている。	○	利用者様同士の関わり合いが、良いものになるよう職員が連携し、互いに支え合えるように援助したい。
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	ホームの行事等の際、ご家族から手伝いを申し入れてくださり、手伝っていただいている。また、手紙等で付き合いを大切にしている。退去先の病院等にも行き、様子を聞いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人の希望やご家族からの情報で把握に努めている。ご本人をよく理解し、好きな事や嫌いなことなどを見極めるようセンター方式などを利用し努力している。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	ご家族やご本人、それまでのサービス利用の事業所からの情報等でご本人の暮らしの把握に努めている。	○	家族会やその他の機会に、ご家族や知人等から、さらに情報を得よう努めたい。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	日々の心身の状態に細かに気を配り、介護日誌に記入し、職員全員が把握できるよう、業務に入る前には必ず目を通して。又、介護計画の見直し時期や状況変化時などには、センター方式の24時間シートなどで現状の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	介護計画見直し時は、管理者、介護職員、看護師などでカンファレンスを行うが、ご家族の参加はほとんど無い。しかし、課題となることについては、その都度、ご家族に相談し、介護計画に反映できるように努めている。	○	ご家族には、介護計画書の説明時に意見を伺っている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	ご本人に状況変化があれば、内容に応じてご家族に伝えるとともに、管理者、介護職員、看護師らとカンファレンス等で話し合い、計画の見直しをしている。		
38 ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の様子、ケアの内容、気づき、工夫などは個別に介護日誌に記入している。また、介護計画は日誌の利用者様ごとのページにを挟んであり、毎日、計画に沿ったケアの内容をプラン実施欄に記入し、計画の見直しに役立てている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	医療連携体制を活かし、負担となる受診や入院を回避している。また、ご本人やご家族の状況に応じ、通院等の必要な支援を行っている。フリープランとして個々の行きたい所を聞き、職員一人がついて出かけている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 ○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	年1回、火災避難訓練を、消防署の協力を得て行っている。また、日常生活で、ご近所の方がボランティアで協力してくださっている。		
41 ○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	運営推進会議での交流はある。その他、ご本人の必要性に応じ、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者に相談し、他のサービスを利用する為の支援を行っている。	○	他のサービスを活用するまでには至っていない。これからも他事業者との交流を広げ、相談しあえる関係を作りたい。
42 ○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	運営推進会議で交流があり、アドバイスを頂いている。本人の必要性に応じ、権利擁護等で地域包括支援センターと協働している。	○	今後も必要に応じて相談し、協働していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
43 ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	事業所と訪問診療の医師は信頼関係が出来ており、医師はご本人及びご家族等の希望を大切に、対応している。		
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	訪問診療の医師、又は、専門医を受診し、相談しながら治療を受けている。		
45 ○看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	非常勤の看護師を確保している。		
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	書面や口頭での情報提供をしている。見舞いに行き、ご本人が安心できるよう努めている。		
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	訪問診療の医師を中心に、ご家族と話し合い、方針を共有できるよう努めている。	○	よりいっそう、方針を共有できるよう努めて行きたい。
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	訪問診療の医師を中心に指導を受け、職員同士で話し合い、検討をしている。又、研修会を開き、勉強をしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
49 ○住替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。	ご家族やご本人、ケア関係者と話し合い、馴染みの家具やご本人の持ち物等を住み替え時にも使用する事や、馴染みの人などの関係が継続できるよう支援している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50 ○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。	利用者様一人ひとりの人格を尊重し、ご本人のプライバシーの保護に関しては、他利用者様に知られないように、さりげなく言葉かけをしている。共同生活なので、100%とは言いきれない。記録等の個人情報については、徹底している。		
51 ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや記号を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	毎月2人づつケアカンファレンスを実施し、より利用者様主体の視点に立った介護計画を作成するよう努め、その介護計画に沿って支援をしている。	○	毎日の生活の中で自己決定という点では、少なくなってきている。フリー献立などでの献立の決定は今後も継続していきたい。
52 ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	一人ひとりのペースで、ご本人のしたい事を優先し、強制はせず、その人らしく過ごせるよう援助している。	○	個別のケアを重視していきたい。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53 ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	月に一度の訪問理美容により、散髪をしている。男性の利用者様は毎朝の髭剃りは欠かさず行っている。	○	気分転換をする上でも、口紅をつけたり、ヘアスタイルを変えたりと、その人らしいおしゃれが出来るよう、援助していきたい。
54 ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。	毎日の食事の準備は無理強いせず、調理、盛り付け、食器洗いなど手伝っていただいている。苦手なものは、食べやすく工夫している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55 ○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	一人ひとりの嗜好を聞き、日常的に楽しめるように対応している。酒類はノンアルコールビール等に対応している。		
56 ○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	排泄パターンを観察、過剰な声かけを避け、さりげなく、トイレ誘導することを心がけ、他利用者様になるべく気づかれぬように努めている。	○	プライバシーに配慮した言葉かけなどは、継続していきたい。
57 ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	入浴は週2回程度だが、利用者様の身体状況に応じて日をずらしたり、希望に応じて回数を変更している。		
58 ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	日中は体調に合わせ、なるべく活動的に過ごせるよう努めている。夜間、眠れないときは、寝る事を強制せず、暖かいミルクやお茶などを勧めて、気分を落ち着かせてもらうなどの支援をしている。	○	夜間帯には、ゆっくり休めるよう、日中時の活動的な生活を支援していきたい。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	利用者様の生活歴等から楽しめる事、役割として張り合いの持てることを引き出し、希望する場所への外出や、家事のお手伝いなどを声かけし、支援している。		
60 ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	一人ひとりの自己管理できる力に応じ、行っていただいている。金銭管理の出来る利用者様には買物などで好みの物を買っていただいている。		
61 ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	天気の良い日には、なるべく外出する機会を増やし、外の空気に触れ、季節を感じ、地域の方たちとの交流を深めてもらうよう支援している。	○	散歩の際は、ご本人が役割を持って戸外に出かけられるよう、町内の“見守り隊”のバッジを付け、町内会との係わりを持てるよう努めている。今後も継続していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
62 ○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	季節の花を見に出かけたり、ご本人の希望を聞き、ドライブに出かけている。	○	ドライブの好きな利用者様が多いので、気分転換も兼ね、天気の良い日に遠出を楽しんでいる。
63 ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している。	便箋、封筒などは常に準備し、希望に応じ、電話の利用、手紙を書くなど出来るよう支援している。年賀状も毎年、一人一枚は書いて頂けるよう支援している。		
64 ○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	訪問は自由で、ご家族や友人等はいつでも訪問できる。玄関前は、花壇や家庭菜園など利用者様と一緒に手作りし、家庭的な雰囲気づくりを心がけている。		
(4)安心と安全を支える支援			
65 ○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束の具体的な行動制限については、マニュアルがあり、職員はそれについて理解しており、一人ひとりの尊厳を大切にしよう努めている。		
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	一人ひとりの尊厳を大切にしよう努めている。外へ出たい利用者様にはその都度、職員が一緒について行っている。	○	夜間は、防犯の為、施錠している。
67 ○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	常に職員が居間などにおいて、利用者様の個々の動き、様子、所在を昼夜を通し、把握し安全に配慮している。		
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	一人ひとりの状態に応じて、注意の必要な物品は、手の届かない所に保管、管理しており、安全に生活できるよう取り組んでいる。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	利用者様の状態を把握し、職員同士、常に声を掛け合い、事故防止に取り組んでいます。	○	事故再発防止のため、事故報告書を用いて今後の対策を検討している。
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	緊急時のマニュアルがあり、又、職員研修等で応急手当の実技実習を行っており、職員が同じ対応をできるように定期的に訓練を行っている。		
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	年に一度、消防署の協力を得て、避難訓練を行っている。町内の方にも回覧板などを利用して声をかけ、参加いただいている。	○	グループホームだけの避難訓練も年に数回行い、常に災害対策には配慮している。
72 ○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている。	一人ひとりの現時点での状況を、ご家族の来訪時や、家族会及び、電話等で詳しく報告し、理解を得ている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	バイタル測定は毎日行い、常に体調変化は、チェックしてる。異常がある場合は、訪問診療の医師や看護師に速やかに報告し、指示を仰いでいるとともに、職員間で情報は共有している。		
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬は看護師が管理しており、情報は、個々にファイルしている。職員は薬の内容を、把握している。症状の変化は訪問診療の医師や看護師と連携し対応している。	○	研修会などで、職員一人ひとりが薬の理解を深めている。
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	毎日排便チェックを行い、予防と対策に努めている。毎日のラジオ体操、ストレッチ運動等を取り入れ運動不足解消を心がけている。	○	運動不足を補う為、毎日ラジオ体操、ステップボード運動、ストレッチ体操などを行い体のリズムを整えている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	毎食後、口腔ケアを行っている。一人ひとりの状態に応じて介助している。歯磨きの出来ない利用者様は、うがい等で対応している。週3～4回入れ歯洗浄剤を使用している。定期検診も行っている。	○	今後も訪問歯科の指導を受けながら毎食後のケアを欠かさず、口腔内の清潔を保っていききたい。
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食べる量は、一人ひとりの体調などを考え、調整している。カロリー計算は特に行っていないが、栄養士にカロリー計算を依頼し、指導を受けている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染防止マニュアルがある。インフルエンザについては、利用者様及びほぼ職員全員が摂取している。ノロウイルス等については、掃除、消毒など心がけ実行している。手洗いは日常的に励行し、訪問者にも声かけし、行っていただいている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	布巾、まな板は毎日漂白している。職員や利用者様が食品や食器を扱う際は手洗いや消毒を行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	表玄関はスロープがあり、車椅子の出入りができる。階段も段差が低く、手すりもついているので昇降しやすく、安全に歩行できる。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	広くて明るいリビングを中心に共有空間があり、壁面には、季節ごとに内容を変えた飾りつけやスナップ写真、利用者様の作品などに工夫を凝らしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
82 ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	テレビを楽しむ空間としてソファが設置しており、仲の良い利用者様同士で会話などを楽しんでいる。他、二つの畳ベンチがあるので、それぞれ、思い思いにくつろいでいる。		
83 ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ご本人が居心地良く暮せるよう、使い慣れた馴染みの家具やベッドなどの物を持参して頂き、居心地良く過ごせるよう工夫している。		
84 ○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	各居室に温度計を置き、換気や温度調節を随時行っている。冬季間は暖房による乾燥もあるので、パネルヒーターの上に濡れタオルを置き、湿度にも注意している。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85 ○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している。	居間、トイレ、浴槽、階段等各所に手すりを設置し、床は、全てバリアフリーで安全に生活を送れるよう工夫している。		
86 ○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	個人の居室の入り口には、名前や、写真などを貼り、トイレも分かりやすく表示してある。部屋には、ご本人の気に入った写真や花などを飾り、利用者様が安心して暮せるよう工夫している。		
87 ○建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	天気の良い日にベランダでおやつを食べたり、日向ぼっこをされたり、駐車場のスペースで焼肉パーティなど、色々な催し物を行い、家庭菜園では野菜づくり等をされ、楽しんでいる。	○	今後も外でのスペースを利用したいろいろな行事を行っていきたい。

V. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<ul style="list-style-type: none"> ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<ul style="list-style-type: none"> ①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	<ul style="list-style-type: none"> ①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<ul style="list-style-type: none"> ①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<ul style="list-style-type: none"> ①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<ul style="list-style-type: none"> ①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<ul style="list-style-type: none"> ①ほぼ全ての家族 ②家族の2/3くらい ③家族の1/3くらい ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<ul style="list-style-type: none"> ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

V. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
97	<p>運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。</p> <p>①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くない</p>
98	<p>職員は、生き生きと働いている</p> <p>①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>
99	<p>職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>
100	<p>職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

（日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載）

普段の生活の中で職員は利用者様のペースを優先できるよう努めている。帰宅願望等で出かけた利用皆様には、なるべくすぐと一緒に出かけられるよう努めている。また、ご本人の行きたい場所の希望を聞いたり、ご本人に合った場所などに個別又は、少人数で外出している。